

# 第107回町史編集委員会 会議録

日時 平成22年3月25日(木)午後3時

場所 寒川総合図書館 参考閲覧室

出席 圭室、木村、鳥養、大口委員

大久保文書館長 高木

欠席 内海委員

傍聴 なし

## 議 題

### (1)平成21年度刊行物の進捗状況について

○平成21年度末の刊行予定の『寒川町史研究』第23号、『寒川町史調査報告書』17、『文書館だより』第7号の3点の印刷物について、内容、編集の状況などについて事務局より説明した。いずれも年度末に納品される見通しであることを報告した。

また、大口委員からは町史研究の特集記事について、圭室委員からは調査報告書の内容について、それぞれ補足説明があった。

### (2)平成22年度事業計画について

○事務局より、つぎのとおり趣旨説明を行った。

平成22年度事業計画案については、10月16日の文書館運営審議会、および10月20日の町史編集委員会で審議していただき、意見を出していただいたところであるが、その後に予算査定が行われた。緊急財政対策のもと、大変厳しい査定結果となったため、10月に審議していただいた事柄が十分には予算に反映できなかった部分もあった。そこで、予算上できることとできないことを精査し、平成22年度事業計画を練り直す必要が生じた。本日その修正案を示すので、意見を頂戴したい。

○これに対し、次のような意見が出た。

- ・予算削減は、22年度についてはすでに決定した事項なのでやむを得ないが、これを前例としないよう、今後は最大限の努力をお願いしたい。
- ・特に、燻蒸ができなくなると、資料保存に重大な影響を及ぼすので、23年度は必ず復活してほしい。
- ・今後、公文書の閲覧ができるようになると特に必要になるのは、閲覧の可否を判

断する能力と権限である。臨時職員だけで運営する日があるのは、町の管理責任上、好ましくない。将来的に向けて職員の増員を検討されたい。

### **(3) 町制施行70周年記念誌について**

- 担当の内海委員が4月上旬まで半年間の海外出張に出ており、調査も構成案も十分に進んでいないという状況を説明し、今後の対応策について検討した。
- 内海委員が帰国しても、寒川だけに時間を割くわけにもいかないだろうから、他の者で手分けできるとことは、しっかり分担を考える必要がある。
- 聞き書きを盛り込む構想だが、昭和15年に少なくとも成人になっていて記憶の確かな人となると、かなり限られてしまうので、人選は迅速かつ慎重に行ってほしい。
- 聞き書きは、ピンポイントで昭和15年の話題だけにすると、対象になる人をさがすのは困難が予想されるので、昭和25年ごろまでにテーマを広げて考えたほうがよい。

### **(4) その他**

- 次回会議は6月ないしは7月ごろに開催する。日程は事務局が調整をはかる。